



市政をズバリ問う 一般質問

本定例会での一般質問は、12月13日から15日までの3日間行われ、11人の議員が質問しました。その質問と答弁の要旨をお知らせします。
※原稿は議員本人によるものです。

信頼ある市立病院の 経営とは

五十嵐多喜子議員

問 病院事業決算を見て市民の方から声が。筑後市立病院は、より高度で安全な医療サービスを提供するため医療機器が導入されているが、その活用や職員の研修、また次に技師の技術レベルアップについて尋ねる。

市長 地域医療の中核として58年間その役割を果たしてきたと思う。昨今医療制度が大きく変わり、自治体病院として、経営が厳しくなっているのは事実。積極的に病院は、市民に説明をしてもらいたい。

市立病院事務局長 18年度の目標として接遇、苦情については、具体的に対応策を立て、説明責任を果たしていく。2月の広報ちくごからシリーズで、病院の経営内容、病院のあり方について情報を流していく。

医療機器と医師の技量については、MRI・CT等で撮影したものを読影する専門の医師を中心に、週2

回若い医師・研修医を含め協議を実施。また月に1回は開業医を含め、筑後症例検討会を開き、技量アップに努めている。

市立病院長 特にマンモグラフィは、市立病院に来て最終診断ができる。非常によいものが撮れる。

筑後市教育研究所の活用は

問 教育研究所の設立のなりたちとその役割は。

学校教育課長 教育研究所は、教育の充実、振興を図る事を目的に設立。役割は研究、研修、相談、情報センター等である。

教育長 筑後市の教職員276名中156名が研修している。実績がまだ十分でない。3、4年は資質をあげる事を目標にしたい。



筑後市の教育研究所